

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2008

課題番号：19520410

研究課題名（和文）形容詞語彙意味論の試み—Mental Property 形容詞のゼロ形態素分析

研究課題名（英文） A Lexico-Semantic Analysis of Adjectives—A Zero-Morphemic Analysis of Mental Property Adjectives

研究代表者 丸田 忠雄 (MARUTA TADAO)

東京理科大学・理学部・教授

研究者番号：10115074

研究成果の概要：

Wise や clever 類のいわゆる W 類の形容詞について、(a)It was clever of John to punish the dog./ (b)John was clever to punish the dog. の構文交替が観察される。本研究はこの現象をヴォイスの転換と捉え、(b)文を基本構文とし、(a)文は(b)の clever にゼロの受動形態素が付加して派生した一種の受動形容詞文と分析した。(b)の主語 John は動作主の役割を担い、(a)文ではこれが内項化され of 句へと転換する。事実、動作主を表す by が of に取って代わるという現象がある：It was clever by John to punish the dog.。以上本研究は形容詞の語彙意味、すなわち項構造から W 類形容詞の構文交替を説明した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：MP 形容詞、語彙意味論、ゼロ形態素、Multiple Tier Analysis

### 1. 研究開始当初の背景

語彙意味論(Lexical Semantics)は述語の語彙構造が統語構造を決定するとする仮説をとり、多くの有意義な成果をあげてきた。しかし、対象とされた語彙カテゴリーは動詞に偏り、必然的に成果ももっぱら動詞構文に限られてきた。一方で、もう一つの典型的な述語である形容詞については、その語彙意味論に基づく主要構文の研究は非常に少なかった。

本研究は、語彙意味論的アプローチを、wise, smart, kind, stupid, brave, rash, foolish, cowardly などの W 類形容詞に応用し、これらが典型的に生起する統語環境を意味論的観点から解析し、併せて形容詞語彙意味論研究の一ケーススタディを試みたという点で画期的な研究であった。

### 2. 研究の目的

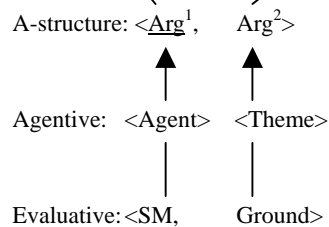
動詞語彙意味論で提起された、語彙が統語構造を決定するとする考え方を W 類形容詞の構文のバリエーションに応用し、これらの形容詞類の語彙意味が多様な構文交替を説明することを示す。併せて語彙意味論のアプローチが形容詞構文にも応用できることを示す。

### 3. 研究の方法

まず wise や clever のような W 類形容詞 (MP 形容詞とも呼ばれる) の語彙意味を分析した。これらには、動作層、評価層の二層の意味が見られる。Jackendoff(1990), Yip et al. (1987)らの Multiple Tier Analysis によりそれぞれの意味レベルで項構造が規定されたとした。同時に、(a)It was clever of John to punish the dog./ (b)John was clever to punish the dog. に見られる構文交替をヴォイスの転換と捉え、(b)文の形容詞を基底形と分析し、(a)文の形容詞はこれにゼロの受動形態素が付加した派生形とした。これにより(b)文の外項は内項化され(a)文で of 句として具現される。すなわち以下のような項構造の変化による項の実現が起こる。

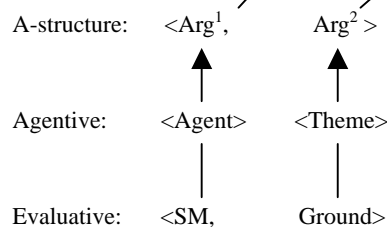
基底形：MP-B 型

(1) You're foolish to spend so much.



派生形：MP-A 型

(2) e was [AP clever+ $\phi$  John] to punish the dog.



### 4. 研究成果

本研究の分析は、MP-A, MP-B形容詞に2層の意味役割を仮定し、併せてMP-A形容詞にはヴォイスを変える $\phi_{PASS}$ が付加されとした。さらに、この意味層の一つは Agentive 層であるとした。この点は、Wilkinson (1970)の所見、すなわち(3)が(4)にパラフレーズされることから窺える。

(3) It was wise of Alex to roll the hose back onto the dock.

(4) Alex did wisely to roll the hose back onto the dock.

MP-A 構文の虚辞パターンは、W 類の形容詞の他に[Adv+V-en]よりなる複合語にもみられる。この場合は、ゼロ形態素ではなく、述語自体に PASS 成分が含まれ、MP-A 型のヴォイスが実現される。

(5) It was ill-judged of Mr Bush on Thursday

to give the Taliban "a second chance" if they "cough up" bin Laden.

(<http://www.amerikabrev.nu/index.asp?page=artiklar&read=1>)

ここで、*of*句は‘judge’の動作主者役、すなわち Agent を表す(The act was ill-judged by Mr Bush.)と同時に話者の評価の SM、そして不定詞節は判断の Ground の役割を担う。*OED* では、(6)の[Adv+V-en]の組み合わせにも、Agent 役を与える *of*の生起が見られると指摘されている。

(6) cleverly managed, ill done, well done, well thought

(7) However he married her, which was well done of him, if he had given a promise to that effect.

([http://oregonstate.edu/instruct/phl302/texts/confessions/Rousseau\\_BookVII.html](http://oregonstate.edu/instruct/phl302/texts/confessions/Rousseau_BookVII.html))

Agent 役付与機能をもつ *of*について *OED* は(8)のように定義している。

(8) **of**

Indicating the doer of something characterized by an adj., as *it was kind of you* (= a kind act or thing done by you, on your part) *to help him*.

このような動作主を表す *of*は、MP-A 構文の他に、(9)にも見られるものである。

(9) a. He is beloved of all.

b. She was forsaken of her husband.

c. He went out unseen of any.

(『新英和大辞典』)

MP-A 構文の *of*句が Agentive-Tier の Agent 役を実現していることは、しばしば *of*の代わりに *by* が用いられることから窺える。

(10) a. It was smart by Apple to get these out prior to the Holiday shopping season.

(<http://forums.macrumors.com/archive/>

[index.php/t-155854.html](http://forums.macrumors.com/archive/index.php/t-155854.html))

b. Yes it was stupid by us not to check before we bought it but we really got fucked.

(<http://www.preludepower.com/forums/showthread.php?t=234518>)

c. It will be very kind by you to send us if it is possible.

(<http://www.geocities.com/Vienna/Stre/2377>)

d. it was therefore wisely done by Mr Allworthy, to remove Jenny to a place where she might enjoy the pleasure of reputation, after having tasted the ill consequences of losing it.

(<http://fielding.thefreelibrary.com/The-History-of-Tom-Jones-a-Foundling/1-9>)

*Of*-NP は、もう一つ、Evaluative-Tier の SM 役を担っている。この SM は、評価の対象ということから、トピック的性格をもっている。したがって、指示が確定していない不定の NPがこの PP内に現れることは許されない。

(11) a. ?It was stupid of a defender to pass the ball back.

b. ? It was stupid of a linguist to withdraw his article. (Geuder (2002: 148))

では本研究の具体的帰結を見てみよう。

・ Ground 項は行為を表す

MP-B 構文にせよ、MP-A 構文にせよ、Ground 項は行為を表し、状态的述語は排除される。

(12) a. Alex was wise to roll the horse back onto the dock.

b. It was wise of Alex to roll the horse back onto the dock.

(13) a. \*Glimp was clever/kind/stupid to resemble his horse.

b. \*Glimp was clever/kind/stupid to be tall.

c. \*Glimp was clever/kind/stupid to inherit a fortune.

(14) a. \*It was clever/kind/stupid (of Glimp) to resemble his horse.

b. \*It was clever/kind/stupid (of Glimp) to be tall.

c. \*It was clever/kind/stupid (of Glimp) to inherit a fortune.

(Wilkinson (1970))

これは、MP 形容詞がなす述部が、動作主について (SM でもある)、その行為の様態に対する評価を表し、補文がその根拠と理解されることから帰結する。根拠が行為を表さないと、動作主の様態に関する評価も成立しないからである。したがって、Ground 項が行為を表さない(13), (14)は排除される。

・意味的コントロール

さらに本分析の帰結をみてみよう。MP 構文の sentient 項と Ground 項の間には意味的なコントロール関係が存在する。

(15) a. John<sub>i</sub> was clever [PRO<sub>i</sub> to sell his junk bonds].

b. It was clever of John<sub>i</sub> [PRO<sub>i</sub> to sell his junk bonds].

c. [PRO<sub>i</sub> selling his junk bonds] was clever of John<sub>i</sub>. (Stowell (1991))

(16) a. \*It was crazy of John for Sam to leave.

b. \*Sam's buying the book was smart of John.

c. \*Mary's loss of her purse was stupid of Bill. (Ibid.)

この関係は不定詞の PRO 主語に限られない。

(17) a. For Bernie to run away from the bear

was wise of him.

b. That Bernie ran away from the bear was wise of him.

c. \*For John to run away from the bear was wise of it/the beast.

(18) a. ?It was clumsy of John that the glass broke.

b. ??It was stupid of John that his little daughter broke the glass.

(Geuder (2002: 112))

c. That John came was wise of him. (Wilkinson (1970))

これは、MP 形容詞の項構造から帰結する。Sentient (SM)項は、自身の行為の結果、その動作の様態について、一定の判断が下される対象であり、必然的に、*of*-NP と不定節の動作主は一致することになる。

・ *Of* 句の随意性

MP 構文では、Ground 項は義務的であるが、*of* 句は随意的である。

(19) a. \*It is/was wise of Rollo.

b. The act of your leaving was wise/smart/kind. (Wilkinson (1970))

本研究の分析では、MP形容詞は、 $-\phi_{PASS}$ が付加された受動的述語とされた。したがって、受動文の *by* 句と同様 Agent/SM 項は、生起が随意的な内項の資格を持つ。

・ Factivity

Factive predicates は補文内容の真が前提されており、主節が否定されても従節の真理値は影響を受けない。MP 形容詞は Kiparsky and Kiparsky (1970) の意味で、factive predicates に分類される。

(20) a. Bernie was wise to run away from the bear.

b. Bernie wasn't wise to run away from

the bear.

(20a, b)では、否定に関わらず不定詞節の真は変わらない。これは、不定詞節が判断の根拠を表すことから帰結する。判断とは、確実に起こったことを根拠に下されるものであるから、不定詞節の factivity が帰結する。したがって、補文中に法要素が生じたものは、その事実性と矛盾し排除される。

(21) a. ?It was stupid of John that he must not leave.

b. ? It was stupid of John that he might give up.

c. ?It was stupid (of him) that he seems to have left. (Geuder (2002: 139))

本研究では、不定詞句をとる MP 形容詞に、Agentive-Tier と Evaluative-Tier の複層の意味を仮定した。Sentient な項は、Agent であると同時に評価の対象でもあった。また、不定詞句は Evaluative-Tier の Ground 項により認可された。

さらに本研究は、MP-A 形容詞のゼロ形態素分析を提案した。この分析で形容詞は、MP-B 形容詞に受動的なゼロ形態素が付加した複合形容詞と分析され、外項を欠く非対格述語となる。MP-B 構文と MP-A 構文のヴォイスの違いは、こうしてゼロ形態素によって説明された。

MP-A 構文の *of*-NP は評価の対象に加えて、動作主役を担っている。MP-A 構文に、しばしば、*of* の代わりに動作主を表す *by* が現れるゆえんである。二層の意味成分がもたらす MP 形容詞のトータルな意味は、sentient 項について、不定詞句を根拠として、その行為の様態的評価を述べることである。この意味から、不定詞句の行為を表す意味と、*of*-NP によるコントロールが帰結した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

1. Shaoling Cai, Tadasuke Monma, Tadao Maruta, An Application of the Bilingual Asymmetry Model to Japanese: A Dissociation between Kanji-to-English and Kana-to-English Translation, Yamagata Medical Journal 25-2, pp.49-60, 2007, 査読有り
2. 丸田 忠雄, 英語の自動詞 *die* は非対格動詞か, 言語研究の現在 形式と意味のインターフェース, pp.173-182, 2008, 査読無し
3. 丸田 忠雄, Mental Property形容詞のゼロ形態素分析, 語彙の意味と文法, pp.195-208, 2009, 査読無し
4. 丸田 忠雄, 非対格性仮説の脱構築, 東京理科大学紀要 41 号, pp.173-188, 2009, 査読有り

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丸田 忠雄 (MARUTA TADAO)

東京理科大学・理学部・教授

研究者番号：10115074

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し